教育委員会会議の概要（令和６年１２月定例会）

◆ 日　　時　令和６年１２月２４日（火）午前９時００分から午前１０時０３分まで

◆ 場　　所　教育局　第１会議室

◆ 出　席　者

教　育　長	天 野　　元	出席
委員・教育長職務代理者	花 渕　　浩 司	出席
委　　員	山 田　　理 恵	出席
委　　員	庄 司　　弘 美	出席
委　　員	長谷川　真里	出席
委　　員	永 富　　良 一	出席
委　　員	松 野　大二郎	出席

◆ 会議の概要

１　開　　会

２　議事録の承認　　11 月定例会

３　議事録署名委員の指名　　永　富　　委　員

４　報　告　事　項

（１）学校納付金収納管理サービスに係る公募型プロポーザルの審査結果について

（学事課長　報告）

資料に基づき報告

松　野　委　員　中学校の文化体育振興会の費用などについてもこのサービスを利用できるのか。

学　事　課　長　今まで各学校において口座振替や口座への振り込み、現金で集めていたものについて、このシステムに切り替えることを基本として考えている。なお、導入後も、学校の負担軽減に配慮したり保護者の皆様からの意見などを伺ったりしながら、調整してまいりたい。

永　富　委　員　応募者数が 3 者ということだが、特にこの事業候補者が選ばれた理由を教えていただきたい。

学　事　課　長　3 者とも学校に特化した集金システムを運営している会社である。その中で、事業候補者が大きく評価されたところは手数料の負担額である。他 2 者からも要件に該当する提案をいただいたが、選定された事業候補者について、口座直結決済時における保護者の経済的負担は無料であり、その部分が評価されたところである。

花　渕　委　員　事業候補者に保護者から入金され、学校で納入状況などの確認ができることは分かったが、その後はどのような流れになるのか。学校の口座に入金されるのか、事業候補者がそれぞれの業者へ直接支払うのか。

学　事　課　長　事業候補者と最終的な詳細を詰めているところであるが、事業候補者が集金して学校の口座へ振り込む予定である。

花　渕　委　員　各学校から業者へ振り込む際の振り込み手数料などはどのようになるのか。

学　事　課　長　今まで学校の負担となっていた現金の取扱や口座振替の手間の解消を目指しており、その後の業者への支払いについては詳細を検討しているところである。

花　渕　委　員　そのような状況であれば、4 月から開始しなくてもよいのではないかと思う。今まで学校では保護者から集めた現金を先生方が銀行にいったん預けて、業者に支払いをするときに、また銀行からおろして、業者へ現金で支払っている。先生方が現金で支払うという作業が変わらないのかを確認したかった。それは今後検討していくということか。

副　教　育　長　これまで保護者から集金する方法が学校によって様々だったため、その部分をシステム化するということである。学校から請求先への支払い方法などについては課題もあり、世の中にはそれに対応した様々なサービスがあることはホームページ等で確認しているところである。今回のシステムを導入することで終わりではなく、よりよいサービスの方法を引き続き検討してまいりたい。

　昨年度より本件については、保護者や仙台市 PTA 協議会の皆様などへご迷惑をおかけしているところであり、システムの導入により学校の業務負担や保護者への負担を少しでも改善したいと思っている。

山　田　委　員　保護者の経済的負担がないのは大変良いと思う。この事業候補者への運営費に関しては仙台市から毎月支払うということか。

学　事　課　長　サービス使用料については、公費負担となる。なお、月々の使用料の支払いではなく、集金総額に対して、従量制で費用を支払うものである。今年度の集金状況等などから、年間約 2,491 万 5 千円程度の使用料の支払いを予定している。

（２）高砂学校給食センターの次期事業について

（健康教育課長　報告）

資料に基づき報告

永　富　委　員　（３）選定理由の中に、「これまでの学校給食センターの運営実績を踏まえ」とあるが、今回の優先交渉権者は、前期も委託された事業者なのか。

健康教育課長　これは高砂学校給食センターでの運営実績であり、前期も委託された事業者である。

（３）令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における仙台市の結果概要について

（健康教育課長　報告）

永　富　委　員　この調査は全国で方法が決まっており、この方法で集計をして、今まで、経年比較や地域別の比較が行われてきたものである。公表されるデータが平均値だけであるため、令和5年度と令和6年度を比較して上がった下がったなどの矢印がついているが、これは本当に意味があるかどうかというのは、統計的な手法を使って評価しないと厳密には言えない。例えば、平均値が上がったなどの時に体力が高い子たちの割合が増えたのか、それとも全体的に上がってるのか、或いは逆に平均値が下がった時に、極端に体力が低い子どもたちが増えたのかなどという評価ができると思うので、そういう分析ができればよいと思う。以前、文部科学省に、やり方を少し見直していただきたいと要望したことがあるが、今まで継続してやってきたことであり、前の東京オリンピックの時からの方法なので、なかなか方法を変えるには至っていないという状況

である。ただしデータが手元にあれば、それなりの分析はできると思う。
一方で、例えば 7 ページにある資料のように、これは統計評価をするしないにかかわらず、平成 30 年から令和 4 年まで児童生徒の体力合計点が大きく落ちているのは、新型コロナウイルスの影響で、子ども達の活動量が減ってきていることは間違いないと思う。その傾向が抑制傾向にあり、どの学年も横ばいになってきて、回復までは至ってないが、それは決して悪い状況ではなく、「仙台市健やかな体の育成プラン 2024」の取組や地域での取組などにより効果を上げていることは間違いないと思う。
この調査について、小学校 5 年生と中学校 2 年生で比較しているけれども、これは異なる子どもたちの比較であり、本来であれば、実際にどういう取組をしたらどういう効果があったかというのは、同じ子どもたちを追跡することで分かるものである。今回はいわゆる全数調査としているので、実態を大部分反映しているとは思う。個人情報の問題があるため簡単ではないが、もし可能であれば、追跡調査ができるような形になっているともっと自主的な対策に繋がると思う。調査のやり方がシステム化されているため、簡単に変えることはできないが、DX 化も進んでいるので、そのようなことについても検討いただければよいと思う。

松　野　委　員　先日体育科の先生と話をする機会があった。その中で、中学 2 年生の生徒でプールの水に顔をつけられない生徒がいるという話を伺った。ちょうどコロナの時期に小学校でプールに入れなかった時期の生徒たちが今中学生になっている。小学校 5、6 年生に関しても、プールに入ることができない状況で低学年を過ごした子どもたちが多い影響なのかとは思う。ただ、高校ではプールに入る機会はあまりなくなってしまうので、将来、海や川に行って何かあった際に、子どもが水に顔をつけるのが怖いという状態は不安であるので、保護者としては水に親しむような授業があるとありがたいと思った。

健康教育課長　学校の水泳の授業がもともと始まった経緯を以前確認したが、前の東京オリンピックの開催や、その他に船での事故があって多数の子どもたちが犠牲になったというような事件があり、それを基に、身を守るためにそのような教育が始まり学校のプールが整備されていったという経緯があるようである。本市においても学校にプールは全て整備されているが、最近は暑過ぎてプールに入れないということが起きていて、プールの授業自体が計画的にできない状況も出てきているところである。
また、小学校の教員採用試験においても水泳の項目が廃止され、極端に言えば、泳げなくても教員になれるということになっている。このように、水泳の授業には課題も多くあるため、今後、学校のプールや水泳授業のあり方については、どのような形が望ましいのか検討してまいりたい。

山　田　委　員　調査結果については、今後専門家に依頼して詳細な分析をしていただくのか。または、今回の結果で終わりということか。

健康教育課長　今回の結果について、専門の調査機関に依頼をして詳細な分析をしていただくことまでは行わない予定である。ただし、今回の公表にあたっては専門家である永富委員にも事前に相談し、この結果の評価についてご助言をいただいた。次年度以降、この結果の分析や活用の手法については、永富委員も含めて専門家の方々のご助言をいただきながら進めてまいりたいと考えている。

山　田　委　員　大掛かりにどこか専門家に依頼するということではなく、永富委員など専門家の先生方に個別にお伺いして、もう少しデータ分析をしてもいいと思う。この 7 ページの結果を見ていると、確かに平均値でも、大体のトレンドがわかると思うが、例えばコロナの影響で児童生徒の体力が落ちたのかというと、小学校 5 年生女子や中学校 2 年生女子もそうだが、コロナが明けてもまだ低下傾向にある。中学校 2 年生男子はコロナが明けたから上がりましたという結果だけだけではない。他の要因で下がっているところがあるということは、今後、何を対策をするのかというところが重要であり、もう一段階分析をしていただいた方がいいのではないかと思う。

健康教育課長　コロナが明けて中学校の男子が上昇傾向にあることについて、推測にはなるが、部活動などの影響は大きいと考えている。ただ一方で、女子については同様の傾向ではない。こちらについては先ほど申し上げたような専門家の方のご意見や学校現場

の意見などを、もう少し幅広く確認しながら掘り下げてまいりたい。

永　富　委　員　松野委員がおっしゃったことに関係するのだが、運動するということにはいろいろな体の動かし方があるが、決してそれぞれ楽ではない。学校体育、特に小中学校、或いは幼稚園や保育園でも同じであるが、難しいことに子どもたちに慣れてもらうということは、その後、体を動かすことやスポーツに関することなど、人生に非常に大きな意味をそれぞれ持つ可能性がある。健康も含めてだが、そういうことを意識すること、或いは運動嫌いや体育嫌いを作らないということは、この国の重点目標に入っている。そういう観点で見ると、運動やスポーツが好きと答えた割合というのが、例えば中学校女子だと 50%を下回ってる。残りが全部嫌いかというと決してそうではないと思うが、むしろ好きよりも好きではないという部分が、どのような割合になってるのかが重要である。そこに対する対策を立てていくことが必要であると思う。

私どもの大学に来て、体育実技を受講する学生を見ていると、やはり運動が好きではない学生もいる。そういう学生に、体育実技の受講により運動を好きになってもらえることもある。それがもっと早くから取り組まれていれば、子どもたちにとっては、いろいろな意味で価値になる。

苦手だが、実はできるということについて、例えば水に顔をつけるというのをやってみて、苦しいことであるが、方法を教えてあげれば楽しみに転換することも可能だと思う。

もちろん学校現場でそのように考えて取り組んでいる教員の方もいると思うが、教員のゆとりを考えると、そこまで手が回らないこともあると思う。私どもも大学の教職科目の中で体育実技も提供しているが、保健の講義で代替できるため、体育実技を受講しなくてもいいということもある。教員の方の苦手意識にも注目しなければいけないと思う。

庄　司　委　員　小学校 5 年生の女子の体力合計点が全国的にも下がっているが、特に仙台市がすごく下がっているというのがこの 7 ページの表から読み取れる。コロナだけの影響ではないと思うが、コロナ禍で運動できなかった時期の影響もあると思う。コロナが 5 類に移行しても、体力や筋力は 1 年 1 年の積み重ねだと思うので、このままいくと、今の小学校 5 年生が 3 年後に中学校 2 年生でこういう体力測定をしたときに、そのまま低い結果になる可能性があると思う。それが少しでも上がるように今からでもきめ細やかな指導をしていただけたらよいと感じた。

５　付　議　事　項

第 29 号議案　令和８年度仙台市立高等学校入学者選抜方針について

（高校教育課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 30 号議案　令和８年度仙台市立中等教育学校入学者選抜方針について

（高校教育課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 31 号議案　教育功績者の表彰について

（総務課長、教職員課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

第 32 号議案　文化財の指定について

（文化財課長　説明）

資料に基づき説明

原案のとおり決定

６　閉　　会